

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	① 自律の精神で自己の成長を図る生徒の育成 ② 誠実、謙虚が身についた品性ある生徒の育成 ③ 進取の気象で高い目標に挑戦する生徒の育成
(2) 現状と課題	「校訓『自律 誠実 進取』のもと、生徒の知性と品性の涵養に努め、保護者・地域社会から信頼される教育活動に努める」を学校経営方針とし、(3)の重点目標に沿って教育活動に取り組んでいる。本校生徒の特徴として、おとなしくまじめな生徒が多い一方で、やや積極性に欠け、困難を避けたがる傾向がみられる。よって、学習活動、特別活動、部活動等、何事にも積極的に関わり、困難に直面してもそれに負けない生徒を育成したい。
(3) 重点目標	1 学習指導の充実（主体的対話的で深い学びにつながる授業改善の推進 研修体制の充実 円滑な校務運営） 2 生徒指導の充実（基本的生活習慣の確立 生徒指導上の諸課題の未然防止、早期発見・早期対応 安全で安心できる学校環境の確立 「6つの力」の育成を目指した諸活動の充実） 3 進路指導の充実（キャリア教育の推進 進路指導体制の確立 生徒・保護者に対する進路意識の高揚、助言・指導と情報提供） 4 リスクマネジメント（生徒の心身の健康の保持推進 教育環境の整備と美化の推進 学校安全の推進）
(4) 結果の公表	職員会議への資料提示並びに学校ホームページへの掲載

学校整理番号	8
学 校 名	青森県立弘前中央高等学校
全日制の課程	本校
自己評価実施日	令和 6年 12月 4日（水）
学校関係者評価実施日	令和 7年 2月 3日（月）

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員5名 （内訳：地域有識者、地域学識者、同窓会、後援会、PTA）

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	主体的対話的で深い学びにつながる授業の推進 研修体制の充実 円滑な校務運営	①互見授業、研究授業、研修等②1人1台タブレット端末の活用及びBLEND・ロイロノート等の活用③他分掌との連携による学校行事の円滑な運営	進路指導先進校視察後、職員会議で情報共有を図った。タブレットを利用した研究授業を実施し、授業改善に向けた体制は充実していた。BLENDを活用した情報発信により、保護者との連絡は密に行えた。	A	1人1台タブレット端末の利用率がかなり高く、どの授業でも活用されている。生徒の評価も良いことがうかがえるので、更に効果的な活用について研究してほしい。	ICTの活用と同時に紙媒体の利点も生かして、生徒の学びの手段を複数確保する。BLENDの機能拡張について研究し、業務の効率化をさらに進める。
2	基本的生活習慣の確立 生徒指導上の諸課題の未然防止、早期発見・早期対応 安全で安心できる学校環境の確立 6つの力の育成を目指した指導	①朝の登校指導、保護者と連携した指導による挨拶運動②声がけ、面談、アンケート等による未然防止③スクールカウンセラー・いじめ防止専門員の支援④生徒主体の学校行事の実践	朝の登校指導は毎日行い、保護者も参加した挨拶運動は年2回実施できた。アセス、学校アンケートの実施結果に基づく面談を担任と実施し、定期的にSCによるカウンセリングも実施できた。学校行事等を生徒が主体的に企画・運営できた。	B	SCが数多く来校していること、アセスの結果分析や生徒理解研修に全教職員が協力していることは大変に良い。挨拶の指導については今後も継続してほしい。	引き続き、生徒の自主的な意見を重視した学校行事の運営と、校則の見直しに努める。SCやアセスを活用し、問題の未然防止に努める。特にSCの常駐化については要望を上げていく。
3	学年と分掌による指導の連携 キャリア教育の充実 生徒・保護者に対する進路意識の高揚、進路選択に向けた助言・指導、情報提供	①進路指導部主催の校内研修や、学年PTAでの進路研修会の実施②生徒への講演等による進路意識の高揚③学年、教科、分掌との連携④進路情報の積極的発信	志望理由や面接、集団討論などの個別指導体制を活用し、柔軟に対応した。新入生対象進路講話、1年生対象職業人講話、2年生対象大学模擬講義と進路講話を実施できた。学年進路係合同の定例会議を通じて、互いの課題を共有し進路行事を円滑に実施できた。	A	面接指導や講話など、手厚く指導していることがわかる。難関大、超難関大に挑戦する生徒のためにも、先生方の研鑽が大事であると思うので、研修等の機会も維持してほしい。	学校全体で総合型選抜・学校推薦型に対する対応を早めに行っていく。生徒が希望する進路の達成率を高めるため、確かな学力の向上を目指す指導のため研鑽を積む。
4	生徒の心身の健康の保持推進 教育環境の整備と美化の推進 学校安全の推進	①校舎の環境整備の徹底②校内外の施設設備の安全点検、避難訓練の徹底③衛生委員会、学校保健委員会の実施、外部機関との連携	保健室来室者に対し、学年や保護者、関係機関と協働して継続的に支援した。AEDを使用した心肺蘇生法ができる人材育成と命を大切にする心の教育を推進した。また、新型コロナ・インフルエンザの感染予防指導を継続して行うことができた。	B	トイレの洋式化は是非継続して働きかけてほしい。正門付近での自転車転倒が多い件についても、県や市と連携して早急に改善してほしい。	引き続きトイレの様式化のための予算要望を続ける。進路棟の建物老朽化対策、並びに中央棟と進路等の間の通路についても、引き続き県に改修をお願いする。

(11) 総括	成果が上がっていること、上手くいっていることは継続した取り組みとして続けるが、滞っていること、上手くいっていないことや困っていることについては、遅滞なく改善の手だてを講じる。男女混合名簿、運動会でのマスメールのあり方については、今年度多くの時間をかけて議論することができた。教育のICT化は驚くほどのスピードで進行しており、BLENDやロイロノートの活用によって、生徒・保護者との連絡や授業への活用には格段の向上が見られた。今後も今まで以上に、近隣の大学と連携を深め、自立した生徒の育成に向け、柱となる探究活動をより充実したものにし、分掌間、教職員間の連携を高めていく。
---------	---